



JICA研究所
プロジェクト・ヒストリー・ミュージアム
JICA Project History Museum

インド二化性養蚕技術協力 写真集

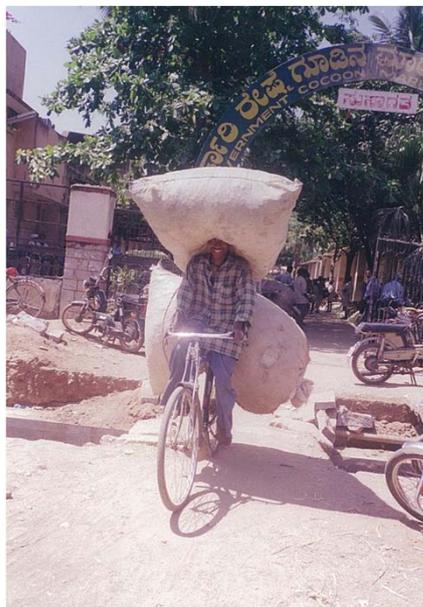
第2部 蚕糸業を支える土地と人々

国際協力機構



カルナタカ州最大級のマユ取引市場「ラマナガラム・マユ市場」における二化性マユのせりの様子。セリは1つのロットにつき1分程度。朝の10時から15時頃まで行われる。二化性マユの取引高は1日5トン程度である。(カルナタカ州ラマナガラム、2011年6月山田浩司撮影)

国際協力機構



ラマナガラム・マユ市場で購入したマユを運び出す製糸業者の運搬作業員。ラマナガラムの街には多くの製糸工場が集積し、必要な時にマユ市場でマユを調達していく。
(2011年6月山田浩司撮影)

国際協力機構



自動式の多条繰糸機を導入した民間製糸工場。1人が10緒の揚げ枠(糸を巻き取る枠)を担当している。(カルナタカ州ラマナガラム、2011年6月山田浩司撮影)

国際協力機構



「チャルカ」(座繰り)と呼ばれる伝統的な家内制小規模製糸工場の様子。1人が4緒の揚げ枠(糸を巻き取る枠)を担当している。(写真提供:河上清)

国際協力機構



「コテージベイン」と呼ばれる家内制小規模製糸工場の様子。1人が6緒の揚げ枠(糸を巻き取る枠)を担当している。(写真提供:河上清)

国際協力機構



インドで結婚式などに着られるシルク製の民族衣装。インドではシルク製のサリーに対する国内需要が多い。(写真提供:河上清)

国際協力機構



インドで公式な場で着られるシルク製の民族衣装「サリー」(写真提供:河上清)

国際協力機構





回転まぶしの現地生産を行う製造業者の作業場。組立部品の在庫はあるが、注文がなかなか来ないと社長はこぼす。(カルナタカ州バンガロール、2011年6月山田浩司撮影)

国際協力機構